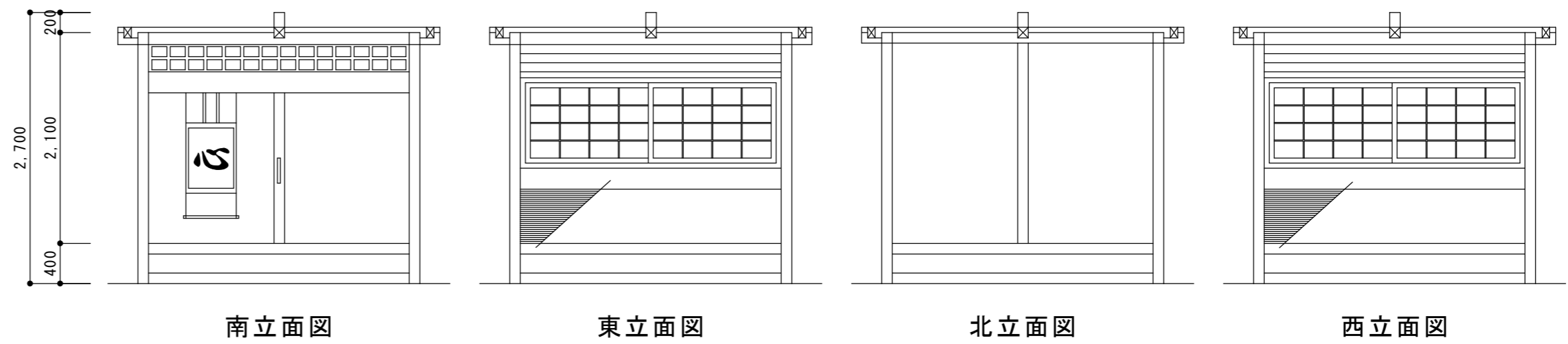
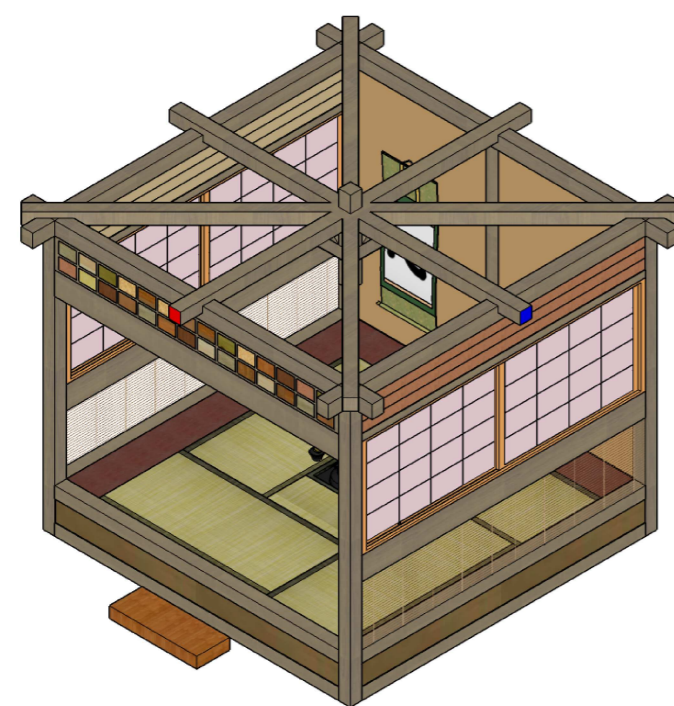
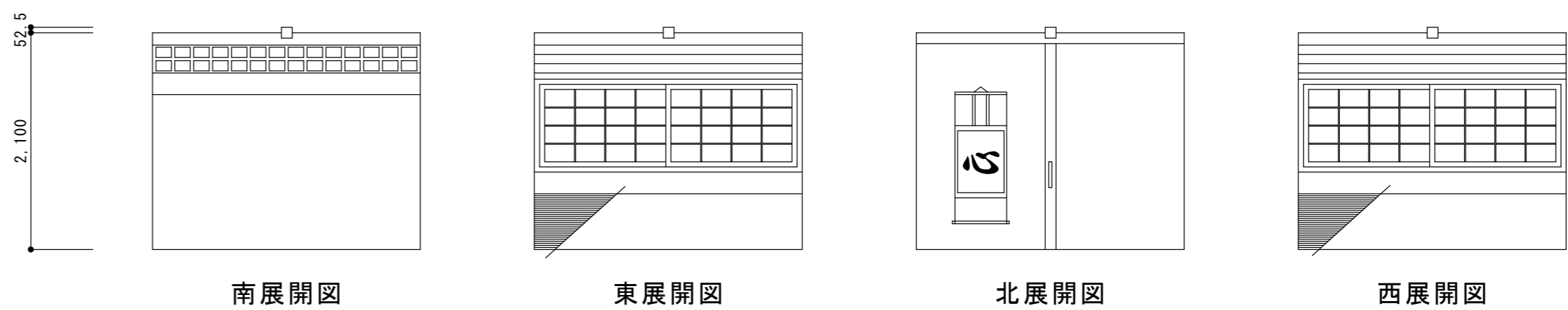


立面図 (S=1/50)



展開図 (S=1/50)



パース図

内部仕上表

部位	材種・仕様	備考
屋根	野点傘小屋組	
壁	松、桧、杉板貼 (東、北、西)	一輪挿し (竹製)
	上段…薄板欄間 (28樹種)	床の間 掛軸
	中段…薄板明かり障子 (桧)	
	下段…雪見すだれ	
幅木	畳寄せ	
床	畳敷込み、一部襷板貼	

外部仕上表

部位	材種・仕様	備考
屋根	野点傘小屋組	
壁	松、桧、杉板貼 (東、北、西)	
幅木	桧板貼	

～唐傘の茶室～

茶道は茶室といった室内で行えば、野点といった野外で行われることもある。日本の誇るべき伝統文化として今も続いているこの二つの形式を含む茶室として設計した。この茶室の屋根は、古くから屋外で茶道が行われる際に用いられていた野点傘を連想させる形状としている。

日本では平城京・平安京は古くから四神相応の地として考えられている諸説がある。また、土俵の吊り屋根の四隅に下がる房にも四神の意味が込められている。この四神を茶室屋根骨組みの小口に、東は青 (青龍)、西は白 (白虎)、南は赤 (朱雀)、北は黒 (玄武)として色付けした。

室内の壁には日本で使われている代表的な木材、杉、桧、松の三種類を用いている。窓は桧の板を薄く削った薄板明かり障子としている。この薄板明かり障子は外からの光を桧の薄板を通してほかに内部に取り入れることで茶室の落ち着いた雰囲気強く醸し出している。茶室南面にある欄間には世界で用いられている木材パネル28種類をはめ込んでいる。28種類の木材パネルの木理を用い、縦の通直木理・横の通直木理を使い分け、日本で格式高い市松模様を形成している。

茶室東西の下段は雪見すだれとなっている。すだれを下げることで外部を遮断し、内部で園児たちが集中して茶道を学べる。また、すだれを上げ、外部で待機している園児たちが先生の茶道を教えているところを垣間見ることにより学習する二つの意味を込めて設置している。